

この秋は暖かい日が続きましたが月末には一気に冷え込んできました。もう12月！本当に一年は早いですね。

現在はインフルエンザが流行り始めています。年末の楽しいイベントに向けて、体調管理として『食と睡眠』に心がけましょう。

今年も恒例のクリスマスイルミネーションをスタッフが飾ってくれました。ぜひお子様とお楽しみください。

院長池澤滋

感染症情報 10/27~11/23	前回	今回
アデノウィルス	5	0
溶連菌感染症	12	7
感染性胃腸炎	26	23
伝染性紅斑（りんご病）	23	12
手足口病	2	1
RS ウィルス	3	8
突発性発疹	7	4
おたふく風邪	0	0
ヘルパンギーナ	0	1
水痘	3	3
新型コロナ	3	0
インフルエンザ A	3	131
ヒトメタニューモ	0	0



今年も
子どもたちの旬の中で



熊本市の京町に、私が好きな八百屋さんがあります。その八百屋さんは、足を踏み入れるだけで、とってもワクワクするのです。他のスーパーとは明らかに違うワクワク感。でもそれはなぜだろうと考えてみると、当たり前かもしませんが、野菜が超絶新鮮！ビニールの袋にも入っていない、ザルにモリモリと並んだ野菜たち。目に飛び込んでくる鮮やかな色、張り、艶、みずみずしさ。それらが私をワクワクさせて、ついついあれもこれもと買ってしまいます。そして早く料理に取り掛かりたい！そんな気にさせてなのです。そんな八百屋からの帰宅の車中で、“新鮮さ”には人を自然に行動へと向かわせる不思議な力があることに気がつきました。



「早く調理しよう」「すぐにいただこう」——

旬のものを目の前にした時の人間の反応でしょうか。新鮮さ・みずみずしさ・新しさは、人を動かすエネルギーにもなるのではないかと気づきました。そしてこの感覚は、ふと外来の子どもたちへ重なりました。

小児はいつも“旬”です。一刻一刻と成長し、昨日まで届かなかった世界へ、今日そっと手を伸ばす。身長が伸び、体重が増え、この世の“初めて”を、まるで吸い込むように学んでいきます。しかし、その旬を、30年前の私は自分の子育ての中では味わうことができず、いつも先のことばかり心配して先読みしてしまいました。

“今”が子どもの面白さであり、かけがえのない景色なのに、“できない”に心を奪われて、今日という日の輝きに気づけませんでした。

実話

「父は語りたい。娘は育てたい(野菜を)。」

久しぶりに帰宅した娘が、インフルエンザワクチンを手伝ってくれました。家族団らんを楽しみたい院長と農業に勤しむ娘。忙しさのあとちょっと笑える夜。



4コマまんが
作・絵
ちえこ・きみこ

この一年、インスタの動画編集を行う中で小児科の面白さに改めて気がつきました。

診察室で見せてくれる表情、今日だけの泣き声や、今日だけの笑い声。



兄弟を思いやる優しい仕草、

ちょっとした勇気、ささやかな挑戦。

まだお話しができない子どもたちの「心の声」

子どもたちの新鮮さは、私たち小児科にとってのエネルギーの一つです。

多くの分野がある中で、この小児科外来という専門医療の世界で毎日ワクワクしながら仕事ができること、この道を選んだことを、院長と共に日々、幸せに感じています。では——私たち大人はどうでしょうか。

「この歳だから」と、何かを静かに諦めてしまうことがあります。

でも、子どもたちのそばにいると、自分の心の奥にもまだ瑞々しい泉があることを、そつと思い出させてくれます。

今日の私たちの心にある、小さな新鮮さを逃さず

毎日ワクワクしながら仕事をしていきたいと思います。

子どもたちのように目に見える成長はないけれど、

「今」を丁寧に受け取りながら生きていけば、大人の私たちも、いつからでも、新しく成長していけるのだ信じて！

文責 池澤千恵子

